

「私の農園」～エンジョイスクールライフ～

愛知県立稲沢高等学校

園芸科2年 篠ヶ瀬晴海

「ダイコン買って下さい」「お買い上げありがとうございました。」2019年1月、私は、その時の感動を生涯忘れません。それは、農業高校一年生の私が、初めて私の農園で丹精込めて栽培した農作物を販売したからです。自分が頑張って育てたダイコンを収穫して、買っていただくことができました。この時、私の心に生まれた「達成感」、それが農業の魅力の一つなんだと思います。

私の農園は、稲沢高校の東農場にある面積約12㎡の小さな露地畑です。総合実習で教わっている露地野菜専攻の先生に相談して、畑をお借りして、今年の秋から栽培を始めたのです。

野菜を畑で栽培するのは、私にとって初めての経験でした。期待いっぱい、不安ちよっぴりの中で「何を作ろうか？」と、あれこれと思いをめぐらせました。その時考えたのは、「授業を活用しよう！」ということです。栽培についての知識や技術のない私が、責任を持って数ヶ月育てることは大変なことです。夏休み明けの9月、農業と環境の授業で先生が「2学期からダイコンとハクサイを栽培する。」と言われました。「これだ！」と私は思いました。農業と環境で学習したことを自分の畑で実践するため、ダイコン栽培を始めました。農業と環境では、一班4人で7株の栽培ですが、私の農園では、1人で40株を栽培しました。わからないことは、教科書を読み返したり、先輩や先生に教えていただきながら間引きや追肥を行い、1月中旬から収穫をして、良い物を校内で販売し

ました。なかなか上手く行かず、「きつい」「面倒くさい」と思うことが時々ありましたが、それでも「やめたい」と思ったことは一度もありませんでした。

「農業高校」といえば「農業に興味ある子が集まる」と思われがちですが、現実には「農業がやりたくて入学した」という人は少ないようです。例えば家が近いから、あるいは勉強したくなかったからという理由で入学したという話をよく耳にします。実は、私もその中の一人で、入学当初は農業に全く興味がありませんでした。稲沢市内に住み、会社員の家庭で育った私には、農業と縁がなかったのです。入学後、しばらくして体を動かす農業実習の授業に興味を持ち始めましたが、そのときはまだ「なんとなく農業って楽しいかも…」と感じる程度でした。

私が農業を自分から進んでやるようになったきっかけは、1年生の時の意見発表の園芸科大会の時でした。当時、3年の先輩の発表で「家は普通の家庭だけど農業がやりたくてこの学校に入学し、農場の畑を借りて野菜を栽培して販売している」という話を聞き、「面白そう、自分もやってみたい」と思いました。早速、その日の放課後、農場の先生に相談に行き、次の日から先輩に色々教えてもらいながら、農作業を手伝うようになりました。それから農場に通うことが多くなり、1学期の終わり頃に「いきいきマーケット」に参加させてもらいました。「いきいきマーケット」とは、週に一

回のペースで行われる地域の方に向けた稲沢高校の農産物販売の事です。初めてでしかも、まわりは先輩達ばかりだったので、緊張しましたが、回数を重ねるうちに、栽培、そして販売の楽しさを知りました。特に先輩たちにとっては、自分が育ててきた野菜なので、とても生き生きと販売していました。地域の皆さんも嬉しそうに買っていくのを見て、「私も自分が育てた野菜を販売したい」と思うようになりました。秋になり、先生に「野菜を育ててみないか」と言われ、私の農園を借りるチャンスを得たのです。農園で収穫したダイコンは約30本。それを数回に分けて職員室に販売に行き、先生方に購入していただきました。初めて販売した時は、短時間で完売することができました。そして多くの先生から励ましの声をかけていただき、本当に嬉しく思いました。しかし、2回目、3回目と販売を続けるとなかなか売れません。作業室にもどると一気に疲れがあふれてぐったりしてしまいました。そして、無性に悲しい気持ちになりました。

次の日、私はこの問題点を解決するために以前買っていた先生に話を聞きました。すると私が育てたダイコンは、1本の重量が2キログラム、根長40センチであり、標準のダイコンより一回り大きかったのです。大きく育ったことに私は有頂天でした。しかし、少人数の家庭ではなかなか食べきれません。買って頂けるお客さんは、数人です。なかなか売れないのも仕方がなかったのです。私は、栽培することに夢中で、販売することまで考えてなかったことに気付きました。「お客様の気持ち」を考えて栽培すること、すなわち、消費者のニーズを把握できる生産者になりたいと強く思いました。

2年生になって、私がお世話になった先輩の畑を引き継がせてもらいました。面積は約30㎡になり、私の農園を規模拡大できました。春休みの期間に何度も農場に通い、準備を進めました。まず、栽培計画です。前回のダイコンの反省を活か

し、消費者のニーズを考えました。販売場所は、校内販売といきいきマーケットです。いずれも個人のお客様であり大量購入や同品目の連続購入が期待できないので、少量多品目の栽培計画をたてました。現在、私の農園では、エンドウ、パプリカ、えだまめ、キュウリなどを栽培しています。どの野菜も初めて育てる野菜ばかりで分からないことが多く、教科書で調べたり、先生に質問しながら頑張っています。入学当初は農業に興味が無かった私でしたが、今では農業高校に入学して良かったと思っています。

私は、自分の好きな農業を将来の仕事に活かさないかと考え始めました。私が高校卒業後の進路として目指しているのは福祉系です。なんとか福祉と農業を結びつけられないかと考えました。そんな時、先生に教えてもらったのが、「農福連携」というものでした。「農福連携」とは、担い手の高齢化と減少の進む農業と、障害のある方や高齢者らの働く場の確保を求める福祉分野の連携のことです。福祉の知識を深め、農業高校で学習した知識・技術を福祉分野で活かし、将来人の役に立てる仕事に就きたいと思います。

私の家の近所では、趣味で野菜を育てているお年寄りが多く、最近では園芸セラピーを目的とした畑を持つ介護施設も増えてきているようです。私はこうした施設で、障害者や高齢者の方々を手助けしながら、野菜を育てる喜びや販売でつながる交流を一緒に体験することで「みんなの心と体が元気になる」、そんな仕事をしたいのです。

現時点ではまだ「農福連携」という言葉はあまり世間に知られていないと思います。「いきいきマーケット」等の地域交流の場で、「農福連携」というものを広め、関心を持ってもらうように努めたいです。そして、私も進路実現にむけてさらに頑張りたいと思います。時々、友達や家族に「何で大変そうな農作業を進んでやっているの？」と聞かれます。私はすぐに答えます。

「楽しいからだよ」